

(1) 新ルートの検討

■周回ルートの新設

現在、突哨山にある遊歩道はカタクリルート、扇の沢ルート、木もれびルートがあります。過去にもう1ヶ所（旧旭川温泉からのルート）が設定されていましたが、山麓の入り口が民有地のため、利用することが不可能となっています。

カタクリ群落をはじめ、多様な環境を楽しみながら、特に利用者の多い突哨山口から既存ルートと組み合わせて周回が可能なルートがあったほうがいい、ということになり、昨年から新ルートを検討してきました。

稜線から旧旭川温泉へ抜けるルートの一部を活用し、西側斜面を横断して突哨山口と繋がるような周回ルートを新たに設置することになり、協議会メンバーや市職員が参加し、2回の現地踏査をしました。

現地踏査は昨年7月と今年5月の2回行い、1回目は大まかなルート選定、2回目は春植物の分布との関係を重点に調べました。その結果、下図のようなルート案を予定しました。途中、深い沢があるので、これを迂回するか、渡るか、ルートや分岐点の名称をどうするかなど、いくつか検討課題があります。

■新ルート案解説



稜線のカタクリルートからだと、現在閉鎖している旧温泉への歩道を一部利用します。緩い下りを歩き、途中から南に曲がって、新設ルートに入ります。

深い沢があるので、しばらく沢沿いに歩き、源頭部まで戻るようにして迂回します。山腹のやや湿地性の土壌なので、大きなコブシやヤチダモなどがあり、バイケイソウや

カタクリ、オオバナノエンレイソウなどの群落付近を歩きます。また、スキー場跡の礎石や二次植生、不思議な石積みなども見られます。

既存のルートと近いのですが、湿地性の植物が多く、沢をのぞきながら歩けるので、違った景色と環境を楽しめます。

沢の越え方に関しては、丸太橋を架けるなどの案もありましたが、費用や維

持管理の面で、迂回案を採用しています。

分岐1と2を結ぶ新設ルートは約780m、突哨山口から木もれ日の道を使って周回すると約1.9kmになります。



名称の設定

■名称の検討

新ルートを開設した場合、名称が新しく必要になります。

ルート名、分岐1（突哨山口側）、分岐2（稜線側）がその対象となります。



例）ルート名：温泉沢ルート、旧旭川
温泉ルートなど

■配慮すべき事柄

- ・ ルートが通過しているところは、ほとんどがカタクリの群落なので道幅はせまめに設定する（1人分か2人分）。
- ・ ササ群落と、その他の植物の境界部分に設置するなどして、できるだけ植生を壊さない。
- ・ 道のつけ方は、草刈りが主流。その他に、ぬかるんだ場所に丸太をしくなどする。

- ・ 植生が薄く、道がわかりにくい場所にも丸太などをおいて、はっきりさせる。



バイケイソウなど湿性の植物群落が広がり、尾根中心の既存ルートとはひと味違う景観を楽しむ



深い沢は、立体的な景観を楽しみながら沢沿いに歩いて源頭部を迂回します。踏査では苦労して横断しました